

## 恐竜の足を取り付ける（続報）

2021. 05. 27 ゆきや

今から3年まえ（2018年10月）に、恐竜の左足を修理しました。その同じ恐竜が、また来院しました。今度は反対側右の足が外れたのです。左の足は、問題なく付いていました。その時に修理した者としては、無事だったことに安堵し、修理の方法が間違っていなかったと嬉しく思いました。写真は、今回同じ方法で、右足も無事付いた当の恐竜です。



以下は2018年10月に書いたレポートです。

\* \* \* \* \*

全長50cmほどの大きな恐竜の、左足が外れてしまいました。



外れた部分を観察します。はめ込みなどではなく、単に接着していたようです。素材はシリコンゴムでしょうか。接着剤があまり効かなかったのかも知れません。内部には綿のような物が、ギッシリ詰め込まれていて、外に膨れています。それもあって、単純に接着したのでは、長持ちしそうにありません。

それと、どんな接着剤が効くのか分かりません。

接着面に何種類か接着剤を付けて、一晚様子を見ました。

結果は、木工ボンドは云うまでもなく×、合成ゴム系もあえなく×、アロンアルファは効くようです。2液混合のMOS8も大丈夫そうです。

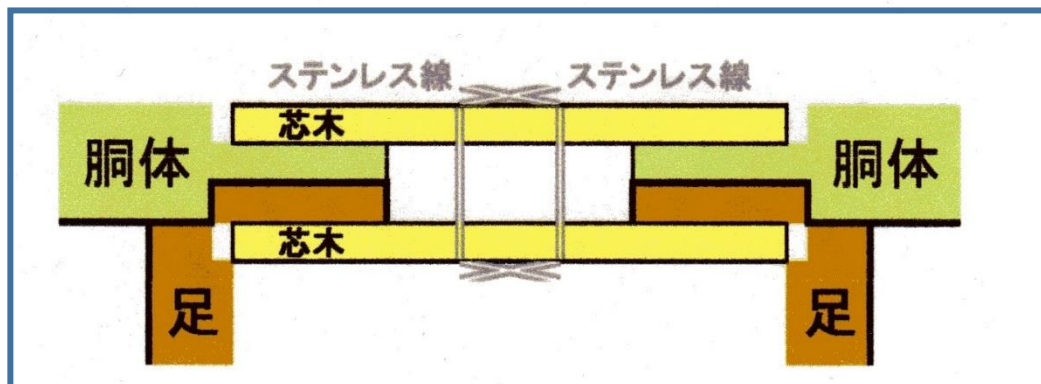
ただいずれも接着だけでは不十分でしょう。

長持ちさせるためには、接着の前段階として、どうすれば良いのか？

胴体と足を何とか結び付けられないか？

素材が柔らかく、糸や針金で縫っても、針穴からすぐに破れてしまいそうです。

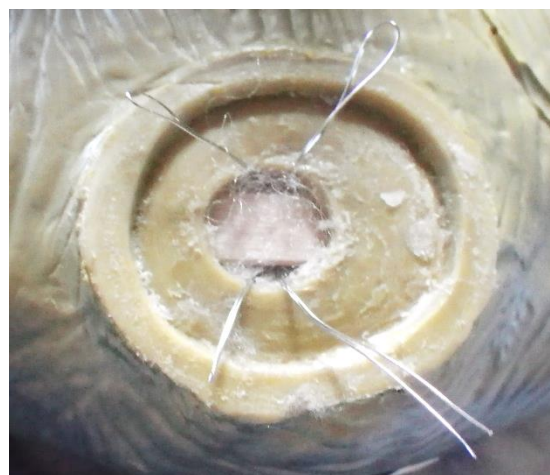
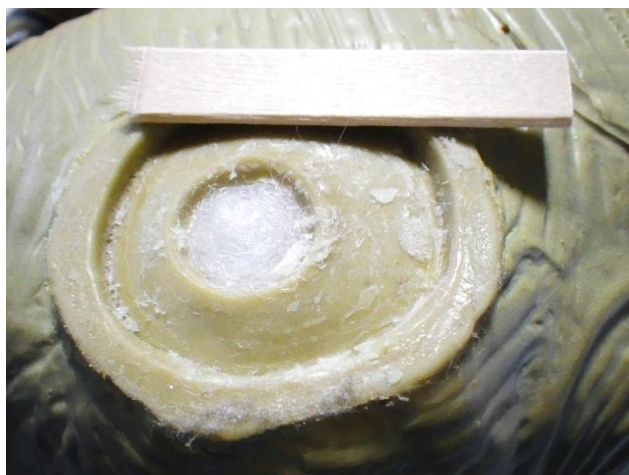
考えたのは、図の様に双方に芯木を入れ、その芯木同士をステンレス線で結束して、胴体と足を結びつける方法です。



芯木は、アイスバーの板が、丁度穴の大きさに合うので利用する事にしました。

アイスバーの芯の下に、2本取りにしたステンレス線を潜らせながら、内部にはめ込みます。写真は、胴体の方の準備の様子です。足の方も同じようにしました。

それを向い合せて、ステンレス線同士を引っ張りながらねじって、結びつけました。



これで両方が外れる事は無くなりましたが、どちらも詰め物がふくれているので、それだけでは、グラグラして落ち着きません。

そこで、合わせ目に接着剤を入れました。

前日のテストで、アロンアルファがある程度効く事が分かっていたので、先ずアロンアルファを入れ、両方を強く押し付けました。

これでグラグラしないようになりましたが、1ミリほどの隙間が残ります。

そこには、2液混合のM o s 8接着剤をいれて、隙間を埋め、接着力を強めました。

両足で立つことが出来るようになった雄姿です。



以上